

2026年度 総合政策学部 FD 活動計画

2026年3月4日

太田和彦

2026年度は、(1) IR アセスメント等のデータに基づく学修成果・学修行動の改善と、(2) 卒業生の声が示す、越境・現場・協働の学習経験の価値を、在学生の学習機会として再設計することを両輪として FD 活動を推進する。特に、3 年次以降で見られる DP 認知の伸び悩み、学修時間の低下、長時間アルバイトの増加といった中盤以降の落ち込みへの対応と、都市型キャンパスで弱まりやすい縦横のつながりの設計を重点課題とする。加えて、2027 年度からの新カリキュラム移行を見据え、コース制廃止の趣旨や教育課程の構造、DP との接続について、教員間で理解を深める機会を設ける。

具体的な活動計画は以下のとおり：

- ・ 進級時(特に3年次)に DP の再周知と学修時間・就労に関するガイダンス(動画など)を実施する。
- ・ 在学生によるピアサポート(TA、動画など)を試行し、1年次の学修習慣の定着を支援する。
- ・ 低コストの越境・協働の学習機会をデザインする(OBOG のゲスト講義・フィールド案内等を含む)。
- ・ 生成 AI・情報リテラシーを、学修不正対策などに矮小化せず、調査・分析の基盤能力として位置づけ、習得の機会を設ける。